研究報告

新潟県のダイズにおけるウコンノメイガの発生消長と薬剤防除法

新潟県農業総合研究所作物研究センター　石本（いしもと）　万寿広（ますひろ）・岩田（いわた）　大介（だいすけ）

はじめに

ウコンノメイガ *Pleuroptya ruralis*（Scopoli）は，ダイズの葉を食害する害虫である。本種は日本全土に分布するが，近年までにダイズの重要害虫として位置づけられていたのはほぼ富山県のみであった。2000 年代に入って，新潟県や東北の各県において本種の発生が増加し，問題視されるようになった。新潟県では，この増加により本種の防除対策の必要性が高まり，2010 年ころより試験に取り組んだ。試験結果の一部は既に発表済みであり（石本・岩田，2017；2018），ここではその概要を紹介する。

Ⅰ　周年の発生経過と新潟県のダイズにおける発生実態

ウコンノメイガは，ダイズのほかにイラクサ科のアカソやカラムシ等を寄主とする。アカソは，山間の道路脇や林縁等，日当たりのやや悪い場所に広く自生している。年間の発生経過は，富山県での詳細な調査結果がある（成瀬・新田，1985；成瀬，1987）。それによると，幼虫態で越冬し，越冬場所はイラクサ科植物の株元の腐植中である。越冬明け後は，アカソなどのイラクサ科植物に寄生して発育する。成虫は 7 月にダイズ圃場に飛来する。ダイズでは主に葉裏に産卵し，その後，ダイズで 1 世代を経過する。新成虫は 8 月中旬から発生するが，この成虫はダイズにとどまらずにイラクサ科植物に戻り，これらに産卵する。

新潟県では，2002 年に一部の地域でウコンノメイガの著しい多発生があった（西土ら，2003）。翌年も多発生の傾向が続き，発生が特に多い圃場では，ダイズのほとんどの葉が食害を受け（図-1），防除対策の必要性が認識された。その後は，多発生圃場では殺虫剤散布が行われるようになったこともあり，2002，2003 年のような地域的な多発生は少なくなったが，県内のほとんどのダイズ圃場で葉巻の発生が見られ，一部に多発生圃場も存在している（図-2）。現在もその発生動向に注意が必要な状態が続いている。

植物防疫

図-1　葉巻が多発生したダイズ圃場（左）と多被害株（右）（原澤良栄氏撮影，撮影日：2003 年 8 月 22 日）

Seasonal Prevalence of Bean Webworm, *Pleuroptya ruralis* in Soybean Fields in Niigata Prefecture and Effect of Insecticides.　By Masuhiro Ishimoto and Daisuke Iwata

（キーワード：ウコンノメイガ，ダイズ，発生消長，殺虫剤）